



羅臼町議会だより



しれとこ

第3回臨時議会・第4回定例議会	2
決算特別委員会審査報告	3
一般質問	4~8
常任委員会合同町内行政視察	9
経済文教委員会所管事務調査	10
議会報告会	11

平成30年
第155号
 2月10日



ツリーに集う笑顔

平成29年 第3回臨時議会



LED化された防犯灯

去る10月25日、平成29年第3回臨時議会が開催され、2件の補正予算について審議され、原案通り可決された。

※数字は万円未満四捨五入

総務費	選挙費	596万円
	防犯灯に要する経費	84万円

平成29年 第4回定例議会

去る12月15日、平成29年第4回定例議会が開催され、平成29年度一般会計補正予算や条例制定など10件が審議され、全てが原案通り可決された。

※数字は万円未満四捨五入



羅臼町郷土資料館

補正額 **323万円** 総額 **60億211万円**

議会費	議員に要する経費	16万円
総務費	一般行政に要する経費	△548万円
	電算システム等運用に要する経費	362万円
民生費	障がい者自立支援事業に要する経費	764万円
	特別会計繰出金に要する経費	109万円
	後期高齢者医療費負担金	△294万円
	児童手当等支給に要する経費	76万円
農林水産業費	水産振興等に要する経費	2,300万円
土木費	橋りょう長寿命化に要する経費	△940万円
教育費	小学校の管理に要する経費	139万円
	小学校教育振興に要する経費	45万円
	中学校教育振興に要する経費	7万円
	公民館管理運営に要する経費	8万円
	文化財保護に要する経費	△324万円
	郷土資料館に要する経費	45万円
	職員費	給与費

条例制定

- 羅臼町議会議員の議員報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例制定について
- 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について

平成30年 第1回臨時議会



知床未来中学校

財産の取得について

1月10日開催

取得物件	備品一式
取得の目的	知床未来中学校生徒・教員備品
取得金額	金 1,134万円
取得の相手方	㈱丸三 村田呉服店 代表取締役 村田 泰次郎

決算特別委員会審査報告書 (平成二十八年年度)

認定第一号

平成二十八年年度目梨郡羅臼町
一般会計

本会計は、適正に執行されたことを認めました。

厳しい財政状況にあって、財政の健全化を図るべく、経費の削減等により、「公施設整備基金」等に積立が出来たことは、積極的に行政改革を行ってきた成果であります。

また、ふるさと納税を主として「知床羅臼まちづくり基金」に積立ができましたことは、各位の努力の結果として現れております。そして、町税は収納率及び収入額ともに前年度比増となっており、増収となったことは、努力の賜物であります。

当町にとって歳入確保は大変重要な課題であり、少子高齢化の進行、町民ニ

組みを求めます。

認定第二号

平成二十八年年度目梨郡羅臼町
介護保険事業特別会計

本会計は、適正に執行されたことを認めました。

認定第四号

平成二十八年年度目梨郡羅臼町
後期高齢者医療事業特別会計

本会計は、適正に執行されたことを認めました。

認定第五号

平成二十八年年度目梨郡羅臼町
国民健康保険事業特別会計

本会計は、適正に執行されたことを認めました。

認定第六号

平成二十八年年度目梨郡羅臼町
水道事業会計

本会計は、適正に執行されたことを認めましたが、今後の水道事業を考慮した

とき、多額の企業債償還金が今後も続くこと、将来の消費税増税等に対応できるよう早期の計画策定と住民説明を求めるとともに、事業の安定に向け、資金計画、受益者の公平・公正の観点から徴収率の向上を図り、施設設備の保全点検に十分配慮し、安全で安定した水道事業の運営が行われるよう、より一層の努力を望みます。

また、総括質疑で申し上げました四点につきましても積極的に検討を進めて頂きたいと考えます。

最後に理事者、職員の皆さんに対し、本決算審査の円滑な運営にご協力頂いた事にお礼を申し上げ、平成二十八年年度目梨郡羅臼町各会計歳入歳出決算六件について、全員一致で認定すべきものと決定しましたので報告します。

平成二十九年十二月十五日
羅臼町各会計決算特別委員会
委員長 田中 良

総括質疑事項

- (1) 知床羅臼町観光協会への補助金について
- (2) 町民体育館指定管理者への委託料について
- (3) 公園管理について
- (4) 経常収支比率について

本委員に付託されました各会計の審査の結果を申し上げますが、財政構造は地方交付税への依存度が高く厳しい状況にあり、財政基盤が脆弱であり、町の施策を支える財政運営は極め

行政の考えを問う

平成29年 第4回定例議会 一般質問

5人の議員による9件の質問がなされました。

議員 坂本

漁業生産減少の現状認識とその対策を

町長 認識
町全体へ与える影響は大変厳しいものと

議員 坂本 志郎



質問

平成二十九年十一月現在、秋鮭の漁獲量は、前年二二〇万匹に対し、今年度は六十九万匹と減少、鮭全体では金額ベースで前年同期八十四億六、〇〇〇万円に対し、今期は五十六億八、〇〇〇万円と減少しています。

漁業生産状況を平成十六年から二十六年までの十年間で見ると、平成十九年の一五二億円をピークとして、平成二十六年が一六億円。十年間の平均は、一三二

億円を維持していました。

平成二十八年度に入り、八十四億六、〇〇〇万円、平成二十九年度、今年度は前年を更に下回る可能性があります。羅臼町基幹産業・漁業の非常事態宣言とも言えます。その上で町の現状認識と対策をお伺いします。

議員 湊屋 町長

十一月末の漁獲量・漁獲高を見ますと、コンブは十月二日に天然・養殖ともに全等級値上げで妥結されていますが、イカは昨比比漁

獲量で二十五%、漁獲高で十五%まで減少し、特に秋鮭の漁獲量は二、三〇七トンで昨年比三十三%、漁獲高は二十五億四、九〇〇万円。昨年比五十三%と大不漁となり数量・金額ともに激減しました。

羅臼漁協では本年の水揚げ予測を鮮魚取扱数量で一五、〇〇〇トン、金額で七十八億円と見込んでおり、漁協が始まって以来、八十億円を下回るのは初めてのことであり、大変厳しい年になると認識しており、漁業者のみならず、水産加工場を含む関連業者など町全体へ与える影響も厳しいものと認識しております。

業の推進」を基本に、資源状況を把握するための関係機関との各種調査と、資源の維持安定のための栽培漁業の推進です。漁協が取り組んでいる増養殖や種苗放流の事業を継続的に支援するとともに、獲ったものに付加価値をつけて販売するという事を、商工会や観光協会を含めた町全体で議論していかなければならないと考えております。

将来性に関しては、海面や漁業権などの問題もある中で、将来を見据えた取り組みを漁業者で構成する漁協はどう考えていくのか、又、漁業者自らがどう考えているのかをはっきりさせなければ進んでいかないと考えております。

質問

当面の対策と今後の取り組み課題は。

議員 湊屋 町長

漁業の振興に向けた当面の対策として、「持続的漁業生産体制の確立と栽培漁



宮腰議員

水産系廃棄物堆肥化処理施設の現状と活用について

町長 関係する業者との協議を深めていきます

宮腰 實議員



質問

この施設の運営は、町・漁協・水産加工協会の三者で行われていると聞いております。水揚げ量の減少や加工業者数の減少により、費用負担が重荷になっていくとの声も聞かれます。

水産加工協会の各事業所では、沢山の町民皆さんが働いておられます。加工原料の不足に皆さん不安を覚えています。加工業者や仲買業の人々の疲弊も著しい

ものがあります。

近年における総費用や運営状況、町としての対応策をお伺いします。また、これまで、クジラ類やトドなどの搬入・処理が行われておりますが、町で駆除された野生動物や狩猟による物の搬入は認められていないため、他町まで搬送し有料で処理をお願いしております。搬入が認められたら



らば、費用負担の一部にもなり得ますし、遠距離搬送から解放されます。可能性についてもお伺い致します。

湊屋 町長

現在の施設は平成十四年に峯浜町に建設しました。

運営費は施設の光熱水費

や堆肥化に伴う作業委託料、

副資材代など毎年約一、七

〇〇万円を要しており、各

水産加工業者が搬入量に応

じた処理料を負担し、運営

しています。近年の漁業不

振により水産加工残渣も減

少し、平成二十七年には

二、〇〇〇トン搬入して

いましたが、本年度は一、

〇〇〇トンを切る見込みと

なっています。このため協

議により本年度から処理単

価の見直しを行っております。

今後は、管理委託先の会

社と連携し電気料などの更

なる節約に努めるとともに、

関係三者と搬出者である水

産加工業者での協議を深め

て参ります。

次に駆除した野生動物や狩猟残渣搬入の可能性についてであります。

平成十五年に「魚介類・

鳥類等製造、貯蔵施設の設

置について」化製場等に関

する法律第三条第一項の規

定により、中標津保健所の

許可を得ております。

駆除や狩猟による野生動

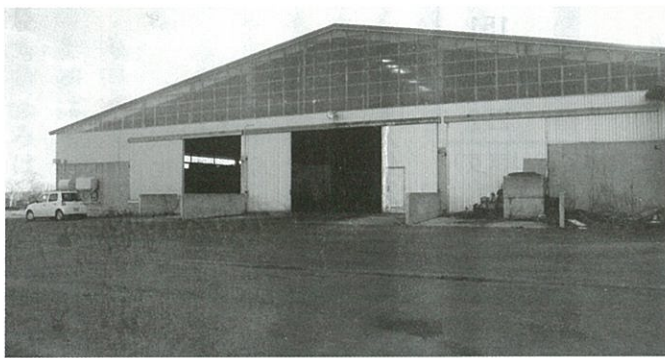
物の残渣搬入は、この化製

場での処理が認められてい

ないため、現在は受け入れ

る事ができない施設となっ

ております。



宮腰議員その他の質問

○公的機関による鯨類の調査研究について



一般質問と答弁は

要約されています

議会だよりでは、質問、答弁の内容を要約して載せています。

質問、答弁の全文について詳しくお知りになりたい方は、町役場議事事務局までお問い合わせ下さい。

議員 高島 町長

通学費の全額補助について

小学生、中学生、高校生も無料とする

高島 讓二議員



質問

前回、九月の定例会と同じ質問です。

我が町の子供たちのなかには学校の統廃合によって路線バスにて通学を余儀なくされている子供たちがおります。統廃合によってバスの定期券を買って通学しなければならぬ子供たちと、徒歩によって通学出来る子供たちとの間で不公平な状態が続いています。

バスによる通学を余儀なくされている子供たちに対して、通学費は町が全額補

助をすべきであると考えてこれまで何度も述べてきました。

前回、九月の定例会では教育長は「全額補助すべきだと思います」とお答えいただきました。

しかしながら、通学費の予算編成権は町長の専権事項であるため、町長の了承がなければ通学費の全額補助は成立しません。

町長は前回、九月の定例会では「管理職プロジェクトにおいて総合的な子育て施策として検討を進めている」とのお答えでした。

前回、九月定例会から三ヶ月経過した今、どのような結論に至ったのかをお聞きします。

湊屋 町長

これまで、数回にわたり質問を頂いたが「知床未来中学校」開校に際し、通学

時利用の小学生、中学生、高校生も新年度から無料とすることを考えている。



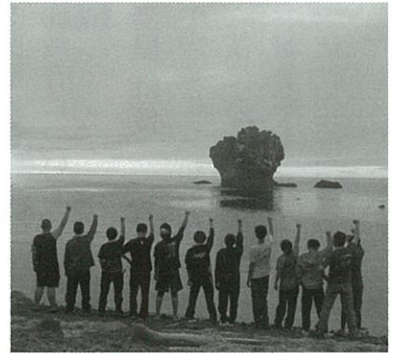
通学バス利用見込者数

(単位：人)

区分	バス行き先	生徒・児童数	バス利用見込数
小学生	峯浜町方面	100	25
	岬町方面	139	36
中学生	峯浜町方面	59	59
	岬町方面	101	20
高校生	峯浜町方面	76	67
	岬町方面	20	15
行き先別	峯浜町方面	235	151
小計	岬町方面	260	71
総合計		495	222

(人数については、12月現在の推計となっております)





議員 小野 教育長
教育にESDの導入で目指すものは
 持続可能な開発のための地域社会の実現
 及び人材を育成する



小野 哲也 議員

山崎 教育長

質問

ESDの定義とESDを推進することとなった経緯。ESD推進の方法及び成果、今後の展望をお伺いする。

て自立的に生きるために必要な『生きる力』を育む」と明記され、学校教育におけるESDの目指すべき目標として「教科等の学習活動を進める中で、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、解決するための能力や態度を身につける」としています。

今後は、連携協定を締結した大学との記念講演会や連携協定の説明、連携協定に関する自治体職員の情報交換の開催。

また、高校存続を切り口とした講演会の開催などを行います。また、地域住民に対してのESD「持続可能なまちづくり」の周知が不十分であると考

えています。幼小中高一貫教育を軸として、地域住民の学びの場を深めるとともに、誰もが「幸福感」をもって過ごせるまちづくりを目指したい。

議員 小野 町長
質問

羅臼高校の存続について

町長 今以上に、その環境を支えていく

学習に定着を図った体験学習にあります。

その中で培われていく感性や郷土愛は、わが町を支えていこうとする希望や熱意へとつながっていくものです。

道は、高校の適正配置を進めておりますが、今後も羅臼高校を道立高校として残すため、道にしっかり伝え、手を尽くしたい。

早急に具体案を示して参りたいと考えています。

湊屋 町長

この問題の根幹は、羅臼高校や当町だけが抱える問題ではなく、日本全体が抱えている人口減少問題や少子高齢化社会、さらには地域の後継者や担い手不足があり、当町に限らず存続を揺るがしかねない問題である。

羅臼高校の進学や就職への実績はもとより、教育の最大の強みは、ふるさとの



田中議員

羅臼町活性化支援策について

町長 福祉教育を含め既存事業の強化及び見直しを進め新たな取り組みへと繋げる

田中 良議員



質問

羅臼町活性化支援策で、平成三十年に行う施策について、左記に関連するものがあるか。

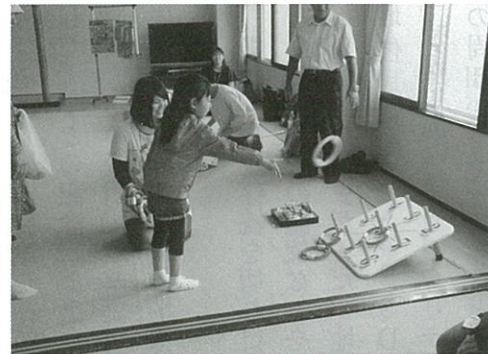
- ① 産業について
- ② 医療・福祉について
- ③ 教育について

湊屋 町長

① 産業については、基幹産業である漁業の安定が地域経済を支え、町全体の活性化に繋がると認識しているため羅臼漁業協同



組合が取り組む沿岸資源の維持・増大対策事業や安定した漁業生産が維持できる、持続性の高い漁業に関する事業などに支援していく。水産及び商工関連は、ふるさと納税の取り組みと知床羅臼ブランドの特産品PRと利用の拡大、知床羅臼町の知名度向上、産業活性化補助金を活用した新商品の開発など、魚を中心とした加工品などを広く販売するための取り組みを



している。観光については、教育旅行の誘致や大学習ゼミによるインカレ事業に加え、新たに根室観光連盟が事業主体となり、根室管内へのビジットジャパン受入事業や観光誘致プロモーションなど交流人口の増加と拡大に向け

た取り組みを計画している。

② 医療・福祉については、介護従事者の研修など、職員のキャリアアップに向けた環境整備に取り組みむことを支援していきたいと考えており、事業所及び町内における介護人材の育成と確保を図る。



③ 教育については、来年度より「通学に係るバスの無料化」、就学援助費の入学前支給となる「新入学準備費」を本年度から入学前支給を開始する。

また、児童・生徒が抱える健康課題や生活習慣の課題について、子どもの自立に向け「家庭の教育力」の向上に向け「羅臼町の子育て支援関連事業の見える化」や「子供の未来を育む家庭教育の支援」につきまして、学校を含め、福祉・教育が歩調を合わせながら、既存事業の強化及び見直しを進め、新たな取り組みへとつなげて参ります。

田中議員その他の質問

- ◎ 新中学校の建設について
 - ・ タイムスケジュールの遅れはないのか
 - ・ 開校の準備状況は
- ◎ 幼小中高の一貫教育について
- ・ 幼稚園・小学校の適正配置計画はどのような状況か
- ・ 関連事項として〇歳〜三歳までの保育環境について

Zoom up!

総務民生常任委員会・経済文教常任委員会

合同町内行政視察

記 加藤 勉 議員



十一月八日、総務民生・経済文教常任委員会合同で建設中の知床未来中学校現場と、平成二十八年八月に発生した集中豪雨による土砂崩落現場の災害復旧状況について視察を行った。事前に事務担当者からの説明の後、最初に町内で一校となる知床未来中学校の建設現場を視察、今年四月の開校に向けて着々と工事が進められている。



羅臼中学校と春松中学校を統合する校舎は、羅臼中学校グラウンドに建設され、鉄筋コンクリート一部鉄骨造り四階建、普通教室五学級、特別支援教室三学級を擁し、屋内体育館と合わせると総面積五、二六六・二九㎡の建物となる。



校舎の外観はほぼ完成し、足場が解体されるまでになっていた。この後内部工事に移り、校舎は二月末までに完成できるとの事です。四月からは新校舎での授業が見込まれている。



この後、旧校舎の解体工事、グラウンドやテニスコート等の外構工事が進められ、平成三十年十二月末の完成を目指している。

次に、平成二十八年の集中豪雨による土砂崩壊現場の復旧工事現場を視察した。

羅臼町が陸の孤島と化した被害現場は、災害復旧工事が進められ、道路上の土砂は撤去され落石防護柵の設置が進み、道路通行には支障は無くなりつつありますが、崩落で削られた山肌は土砂がむき出しで、大雨による危険が予想される所もまだ残っている。

一日も早い完全復旧が望まれる。

経済文教委員会所管事務調査

記 高島 讓二 議員

十一月十日、本年の漁獲水揚げ量において秋サケ漁は、過去数十年で最低の水揚げ量となる事が予測された。

このため、わが町の経済全般に影響を及ぼす事となるため、主要団体である「羅臼漁業協同組合」及び「羅臼町商工会」両団体の幹部から現状と今後の予測等について聞き取り、意見交換等を行った。

羅臼漁業協同組合

水揚げ高は平成二十八年八十億円、平成二十九年五十三億円で、前年比較二十七億円の減となった。

平成二十九年漁協製品、

鮮魚の取扱い計画は当初九十九億四、〇〇〇万円と試算したが、現時点で八十億円弱となる見込みである。従って収支は六、〇〇〇万円、五〇〇万円程度の赤字が予想される。

秋サケ水揚げ高について

- 例年四十八〜五十億円程度だが、本年は三十億円を下回る見込みである。
- 刺し網については、例年並みで一月〜三月のスケソウ漁が三億円程度の減だが、ホッケ漁が昨年よりも良好である。
- 二〇〇海里以降最悪の状況である。との説明があった。不漁の原因としては、海水温の上昇、ロシアトロール船の影響が考えられ、秋サケに関しては三〜四年後に再度このような現象が予測される。
- 鮮魚の数量が足りないため、町外大手二社に買い占められているため町内加工業者が心配
- 比較的安定しているのは昆布漁だが、昆布の権利をやる気のある若い漁師にやらせてはどうか？
- 昆布漁だけでは生活が出来ない。魚種転換も難しい。
- 折詰ウニは、人件費等が

高み漁業者から敬遠され気味である。

殻付きウニの価格が高騰しているため、折詰せずに殻付きの出荷が増えている。

● 殻付きのまま町外に出ると「羅臼産」ではなくなる事は問題である。

● 折詰ウニを作ることで町内に利益が循環し、町内の経済に有効である。

● 共同施設で折詰ウニも試みたが上手くいかなかった。

● 魚種転換を希望する組合員はいるが、新たな設備投資に二の足を踏んでる状況。

● 養殖ホタテ、昆布は順調。

● 獲る漁業から育てる漁業へ転換していきたいが、魚種転換が出来ない状況では難しい。

● 漁業体験観光も一つの策ではないかと考えている。

● 漁業者が減ると羅臼町の人口減になる。何とか状況を打破したい。

羅臼町商工会

● 観光業は順調であるが、水産加工業が苦しい状況

である。

● 鮮魚の取り扱いが少ない。鮮魚（ウニ、ホッケ等）が安定的供給されないと市場から相手にされない。

● 殻付きウニについては、町外業者に高値で取引され、町内の業者は厳しい。

● 加工業は人件費や光熱水費が掛かり、加工する鮮魚が少ないと大変になって来る。また、鮮魚減少の影響により加工後の残渣を処理する廃棄物施設の運営が厳しい状況で赤字になる見込みであり、町に相談したい。

● 水揚げ量が少なくなっている影響は今のところ少ないが、今後が心配である。

● 飲食業は非常に厳しい状況。ハイヤー会社も厳しい。

● 土建業は公共工事が秋頃に重なるため、動きが取れなくなるので早期の発注をお願いしたい。

● 商工会の運営に関し、補助金は他町と比べ少ないが、黒字経営が出来ている。

以上、経済文教委員会として本町の経済二団体との聞き取り調査、意見交換会を行い、後日状況を共有するため、行政側と意見交換を行った。

町長は町の経済について、オール羅臼で取り組んでいきたいとの考えを示し、経済文教委員会として、毎年町の経済界と意見交換を行う事とした。



羅臼漁業協同組合との意見交換



羅臼町商工会との意見交換

議会報告会

会場

岬町コミュニティセンター



去る十月二十七日午後六時から、岬町コミュニティセンターにおいて、町議会議員による議会報告会を開催した。

夜間の開催にもかかわらず、岬町の町内会員はじめ市街地からの出席もあり、活発な意見交換を行いました。

議会側から議会報告会開



催の趣旨の説明の後、第二回定例会での一般質問の趣旨と、町側の回答等を説明した後、参加した方々から当面する課題等についての意見が寄せられていました。

主な内容として、小中学生に対する通学費の要望、相泊、セセキ温泉の管理について、観光振興上での配慮についての指摘、羅臼高



今年4月から無料化される通学バス

校卒業後の就職先の確保問題、岬町投票所廃止に対する救済について、日露経済活動に伴う二〇〇海里問題の解決等。仕事を終えての開催ではありましたが、多くの参加者からの貴重な意見、要望が寄せられた。



毎年波で埋まる相泊温泉



議会の動き

10月

- 24日 議会運営委員会
総務民生・経済文教合同常任委員会
- 25日 平成29年第3回臨時議会
- 26日 決算特別委員会
- 27日 議会報告会（岬町コミュニティセンター） 9名

11月

- 7日 長崎県五島市議会視察来町
- 8日 総務民生・経済文教合同常任委員会視察
（知床未来中学校建設現場等） 10名
- 9日 決算特別委員会（総括）
羅臼町表彰式 6名
- 10日 経済文教常任委員会所管事務調査（漁協・商工会）
- 20日 地方自治法施行70周年記念式典・記念シンポジウム
（東京都） 議長
- 22日 第61回町村議会議長全国大会（東京都） 議長
- 24日 自衛隊中標津地域事務所40周年記念祝賀会
（中標津町） 議長
- 28日 大阪府議会議員視察来町

12月

- 1日 北方領土返還要求中央アピール行動・政府要請行動
（東京都）
- 3日 春松中学校閉校記念式典
羅臼中学校閉校記念式典
- 11日 議会運営委員会
経済文教常任委員会所管事務調査
- 12日 経済文教常任委員会
- 13日 総務民生常任委員会
- 14日 議会運営委員会
- 15日 平成29年第4回定例議会
- 18日 行政懇談会 議長・副議長

1月

- 4日 平成30年羅臼消防団出初式
- 7日 平成30年羅臼町成人式
- 9日 平成30年羅臼町新年交礼会
- 10日 議会運営委員会
経済文教・総務民生合同常任委員会
平成30年第1回臨時議会
議会だより編集特別委員会
- 22日 議会だより編集特別委員会
- 23日 町長・議会議長と商工会正副会長が新年を迎え語り
合う会 議長
- 30日 羅臼町建設業協会新年交礼会
議長・経済文教常任委員長

新年交礼会開催

昨年、40年ぶりに復活された町の新年交礼会が、1月9日今年も公民館で開かれ、約100人が和やかに新年のあいさつを交わした。

湊屋町長はあいさつで、持続可能な漁業体制を目指すとした。また、ふるさと納税額が17年度目標額に迫る3億4,000万円に達したと述べた。



編集を終えて

新年明けましておめでとうございます。今年の羅臼は、これまでのところ雪も少なく穏やかな日が続いております。

先日、重い病に冒された友を札幌市内の病院に見舞いました。黄疸が現れ、太々と浮腫んだ両足に病の深刻さを感じました。息苦しさ、耐えきれず、窓外に眼を転じますと、未だ堅い冬芽をつけた桜がありました。この芽が花となる頃、また元気な笑顔を見せてくれと願いつつ、病床を離れました。

皆様、健康に留意され、実り多い平成三十年として下さい。
病窓に見ゆる冬芽の
未だ堅し

（宮腰 記）

